

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は売りに押されやすい展開か

[11月23日からの1週間の展望]

| 週間高低 (カッコ内は日) | 11月16日～11月20日 | | | |
|-----------------|---------------|------------|------------|----------------|
| | 始値 | 高値 | 安値 | 終値 前週比 |
| ドル・円 | 104.78 | 105.13(16) | 103.65(18) | 103.76 -0.87 |
| ユーロ・ドル | 1.1829 | 1.1894(17) | 1.1814(16) | 1.1887 +0.0053 |
| ===== | | | | |
| 国内株・金利 / 米国株・金利 | | | | |
| | 終値 | 前週末比 | 終値 | 前週末比 |
| 日経平均株価 | 25,527.37 | +141.50 | 日本10年債利回り | 0.013 -0.012 |
| ダウ平均株価 | 29,483.23 | +3.42 | 米10年債利回り | 0.829 -0.067 |
| ===== | | | | |

<来週の主要経済統計等>

- 23日 NZ第3四半期小売売上高
独、ユーロ圏、英11月製造業PMI速報値
独、ユーロ圏、英11月非製造業PMI速報値
米10月製造業PMI速報値、非製造業PMI速報値
- 24日 独第3四半期国内総生産(GDP)確報値
独11月ifo景況感指数
米9月住宅価格指数、米9月S&Pケースシャー住宅価格指数
米11月消費者信頼感指数
- 25日 米第3四半期国内総生産(GDP)改定値、米新規失業保険申請件数
米10月耐久財受注、米10月個人所得・個人支出
米11月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値、米10月新築住宅販売件数
- 26日 NZ10月貿易収支
日本9月景気動向指数改定値
米国休場(感謝祭)
- 27日 米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録(11月4～5日分) -----

【前回のレビュー】ワクチンが広く実用化されるまではまだ時間を要するとみられ、株高も調整を迎える可能性が高く、その場合はドル買い円買いの動きの中、円買いがやや勝る動きが見込まれる。このため、ドル円は105円近辺を中心とするもみ合いが続くとした。

【世界的な感染拡大が円高要因に】

9日に米国の製薬大手ファイザーが独ビオンテックと共同で開発している新型コロナウイルスのワクチンの臨床試験で高い有効性が出たと発表した。その後、ファイザーは、18日にワクチンの予防効果が95%に達して、重篤な副作用も見られなかったと発表している。近々米食品医薬品局(FDA)に緊急使用許可を申請して、早ければ年内にもワクチンが使用可能となる。

また、米製薬会社のモデルナは16日に新型コロナウイルスのワクチンの最終治験で高い有効性が確認されたと発表した。同社も米食品医薬品局(FDA)に緊急使用許可を申請するとしている。

9日のファイザーの発表を受けて欧米株は急騰して、その後は高値圏でのみみ合いとなっている。新型コロナウイルスのワクチン開発進展と実用化への期待感が欧米株を支えており、リスク選好のドル売りの動きにつながっている。ユーロドルは底堅く、ドル円は上値重く推移している。

なお、米10年物国債利回りは10日に0.985%前後まで上昇したものの、その後は新型コロナウイルスの感染者数の増加傾向を受けて0.82%台まで低下している。米長期金利の低下もドル売りの動きにつながっている。

新型コロナウイルスの世界全体での感染者数は5500万人を超え、米国では1100万人を超えている。米国では1日の感染者数が10万人を超えてきており、1日17万人超に達するなど増加傾向に歯止めがかからない。米国では死者数が25万人を超えてきており、その分、ワクチン開発進展への期待感は根強い。

そうした中、日経平均は上昇を続けて、17日に大引けで2万6000円台を回復した。終値で2万6000円を上回るのは29年半ぶりとなった。なお、その後は相場の過熱感に加えて、国内での新規感染者数の増加傾向を受けて下げに転じている。

国内での新規感染者数は18日に2201人となり過去最多を更新した。東京都の1日の感染者数は493人となった。東京都では19日に534人の感染者を確認、国内では2386人となり、いずれも連日で過去最多を更新している。国内での感染者数の増加傾向は株の上値を抑えるとともに、円買いの動きにつながっている。

ワクチン開発への期待感と感染者数の増加といった材料が交錯する中、ドル円は上値の重い展開が見込まれる。ドル円は18日の海外市場でドル売り円買いが進んで104円の節目を割り込み、103円台に突入した。その後は上値の重い展開が続いている。ワクチンが普及するには時間がかかり、米連邦準備制度理事会（FRB）が一段の緩和策に動く可能性も高いとみられる。こうした中、ドル円は戻したところでは売りに押されやすい展開が続くこととなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、102.50～105.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、23日に米10月製造業PMI速報値、非製造業PMI速報値、24日に米9月住宅価格指数、米9月S&Pケースシラー住宅価格指数、米11月消費者信頼感指数、25日に米第3四半期国内総生産（GDP）改定値、米新規失業保険申請件数、米10月耐久財受注、米10月個人所得・個人支出、米11月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値、米10月新築住宅販売件数、26日に日本9月景気動向指数改定値、米国休場（感謝祭）、27日に米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録（11月4～5日分）などがある。

【ユーロドルはもみ合いで推移か】

ユーロドルは11日に1.17台半ばまで下落した後は底堅い推移を見せて、1.19近くまで上昇した。ドル売りの動きがユーロドルの上昇につながった格好となっている。欧州では新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、おそらく今後の景気に相当な悪影響を及ぼすとみられる。

欧州中央銀行（ECB）のラガルド総裁は11日の講演で、12月のECB理事会での追加緩和を示唆するなど、ファンダメンタルズからはユーロ買いが続きにくくなっている。ユーロ売りとドル売りが交錯する中、ユーロドルはもみ合いで推移することとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1700～1.1925ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、23日にNZ第3四半期小売売上高、独・ユーロ圏・英11月製造業PMI速報値、独・ユーロ圏・英11月非製造業PMI速報値、24日に独第3四半期国内総生産（GDP）確報値、独11月ifo景況感指数、26日にNZ10月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

～ノルマ～

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。